

ものづくりマイスター派遣先

茨城県立真壁高等学校

〒300-4417 茨城県桜川市真壁町飯塚 210

概要

(H28.8 取材当時)

学校長 植木 邦夫

創立・沿革 明治42年 真壁町立農学校(乙種)設立
 明治45年 真壁郡立農学校に校名改称
 大正10年 茨城県立真壁農学校に校名改称
 昭和45年 茨城県立真壁農業高等学校に名称改称
 昭和58年 茨城県立真壁高等学校に校名を改称
 平成6年 環境緑地科設置
 平成20年 100周年記念式典挙行
 平成27年 環境緑地科全国募集開始

設置学科 農業科、環境緑地科、食品化学科、普通科

卒業生総数 17,890名

教職員数 71名

生徒に現場の感覚を身につけさせて職業感覚を体得させたいがために

本校では、平成24年度に茨城県の主催する「未来の名工育成事業」の一環として、環境緑地科の実習事業に外部の講師を招いて左官の講習を実施しました。平成25年度には、国の事業として「ものづくりマイスター制度」がスタートしたことを地域技能振興コーナーから案内され、早速導入しました。「ものづくりマイスター制度」は、国の事業だけあって、費用負担面での支援があるなど非常に利点の多い制度で助かりました。学校の中だけで生徒が現場の感覚を身につけることは難しいだけに、職業感覚を体得するよい機会として全員に受講させました。



派遣マイスターの指導の様子

カリキュラム

期間	平成27年9月
実施場所	真壁高等学校 稲荷原農場
受講者数	23名

	指導日	指導内容
1	9/4	準備作業、左官工具類の点検、パネル(塗装用)取付け作業
2	9/8	石灰モルタル練り(配合、練り方)、壁塗り作業(鏝の使い方、塗り付、密着方法)、塗り材の剥がし方、再利用法、中塗り作業
3	9/11	同上、塗り付の順序、鏝の操作法、養生の仕方、平面仕上げの方法等
4	9/15	同上3日目、同作業繰り返し塗り、しっくい上塗り作業について、プラスター材、その他仕上げ材等について、上塗り作業
5	9/18	同上2日目、仕上げパターン模様壁、意匠図案について、解体作業

ものが完成していく喜びや楽しみを生徒に感じてもらうことが一番

● ● ● 壁塗りから工芸的な作品作りも導入

高校生を指導するのは初めてでしたので、最初はどんなことを教えたらいかが迷いました。最初の年は、壁を塗ることを教えたいという気持ちから、10日間すべてが壁塗りの指導でした。しかし、壁塗りばかりでは生徒たちの興味が薄れてしまうのではないかと思い、翌年からは、壁塗りのほかに工芸的なものを作らせて、1つの作品ができるようになれば思い出にもなるだろうと考えました。左官の仕事には、壁塗りのほかに^{こて}鏝を使ってモルタルで木や石や岩などを本物に似せて仕上げる擬木、擬石、擬岩という作業があります。そこで、モルタルを使ってフラワーポットなどの工芸作品を作る作業にも取り組んでもらうことにしました。

● ● ● 中学生から高校生くらいが技術的なものを身につけるには最も適した時期

中学生から高校生くらいの年代というのは、技術的なものを身につけるには最も適した時期です。この時期に身につけたものは一生忘れないだろうと思います。鏝を持ったことのある生徒はいませんでしたので、最初は鏝の持ち方から教えたのですが、皆さん早く習得してくれました。講習の3回目くらいになると、皆、鏝を使ってうまく壁材を塗ることができるようになってきました。最初の年は、1日3時間で10日間の講習でしたが、講習の最後のほうになると相当に腕を上げる生徒も出てきました。

● ● ● 夢中になってのめり込んでしまう場合にはまわりをよく見なさいと指導

受講した生徒は20数名くらい的人数でしたので、

一人ひとりに指導するのは大変でした。やはりものづくりマイスター1人の目が届くのはせいぜい5人くらいの生徒ではないかと思います。実技指導が始まると夢中になってのめり込んでしまう生徒が多かったです。そのようなときには、まわりの生徒をよく見なさいと指導しました。そうすると、生徒自らが気づくところが出てきたようです。

● ● ● ものづくりマイスター自身が正しい指導を意識していかなければいけない

ものづくりの大切さというのは、単に完成されたものを見ただけでは分からない、それを作り上げていく一つひとつの過程を見たり、体験したりすること、そしてそこに作ることのおもしろさを発見してもらうことだと思います。これがものづくりの原点でしょう。

そして、ものが完成していく喜びや楽しみを生徒に感じてもらうことが一番ですが、ものづくりマイスター自身が正しい指導というものをかなり意識しなければいけないのではないかと思います。どうしても専門的な指導になると、ものづくりマイスター自身が夢中になり、のめり込んでしまうことがあります。指導の仕方については、やはりすぐに手を出して助けてやるのではなく、生徒自身が自主的に技能を身につけられるように支援すべきだと思います。

ものづくりマイスター
渡邊 洋一 (わたなべ よういち)

昭和19年10月6日生まれ
昭和50年度 1級技能士 左官(左官作業)取得
平成15年度 卓越した技能者の表彰「現代の名工(左官)」受章
平成25年度 厚生労働省ものづくりマイスター(左官)認定



ジャンルにとらわれず、生徒にはいろいろな職種に挑戦してもらいたい



益子 透 教諭

● ● ● 1つの職種に限らず、 3つの職種について指導を依頼

真壁高校では、「ものづくりマイスター制度」を導入して4年目になります。最初の3年間は左官の職種だけでしたが、現在は10日間の講習のうち、4日間は左官、4日間は真壁町の地場産業である石材、そして残りの2日間は鉄筋というように3つの職種に振り分けて指導してもらっています。このように1つの職種に限らず、3つの職種について指導をお願いしているのは、生徒にいろいろな職種を体験させて、選択の幅を広く持たせてあげたいという意図からです。

● ● ● 実習時間の有効活用で 「ものづくりマイスター制度」を導入

「ものづくりマイスター制度」の導入に当たっては、特に実習時間を有効活用するという目的でものづくりマイスターによる指導時間に当てました。しかし、その反面で、本来のカリキュラムである実習時間を確保するのに苦労しました。実習時間をものづくりマイスターの指導に当てた理由は、通常の授業では教員1人しか付きませんが、実習時間では教員1人と実習助手1人が付くので、ものづくりマイスターの指導に教員と実習助手の2人がサポートすることができるからです。しかも、環境緑地科には石材、造園、環境工学の3つのコースがあり、3つのコースで同時に講習を受ける

と各コースごとに教員1名、実習助手1名が付きま
すから、合計6名によるサポートが可能となります。

● ● ● 「ものづくりマイスター制度」の 魅力とメリットは

「ものづくりマイスター制度」の大きな魅力は、ものづくりマイスターの派遣に関する一切の調整を地域技能振興コーナーで引き受けてくれる点、実習のための材料費などの費用の支援がある点、更に熟練したものづくりマイスターを講師として派遣していただく費用も全額補助していただける点です。そして、ものづくりマイスターの指導の素晴らしいところは、見るだけですべてが理解できるという点でしょう。細かいところを聞いて学習するというよりも、ものづくりマイスターの作業を一目見ればすべてが分かり、ひらめくところがあります。昔から職人の仕事は「見て覚えろ」と言われていますが、まさにそのとおりだというのが実感できます。また、こんな材料でこんなことができるのかという驚きと発見もあります。まさに一流の技能を間近に見られるというのがこの「ものづくりマイスター制度」の最大のメリットです。

● ● ● 授業にもないジャンルを積極的にとり入れ、 生徒の選択肢を増やしたい

「ものづくりマイスター制度」を導入しようとする学校の多くは、その学校にある学科に関する職種のものづくりマイスターの指導を受けて技能や知識を補強していくのが普通の形ではないかと思います。しかし、真壁高校には左官という授業はありません。にもかかわらず左官のものづくりマイスターに指導をお願いしたのは、授業にはないジャンルも積極的にとり入れて、それらを生徒の選択肢の1つに組み入れられるようにしてあげたいという思いからです。ジャンルにとらわれず、生徒にはいろいろな職種に挑戦してもらい、こういう仕事もあるのかという体験をたくさんさせてあげたい。この思いを生徒に伝えることが最も大切だろうと考えています。

受講者の声

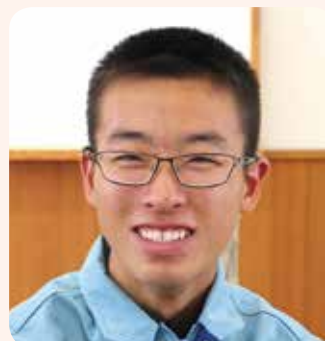
学校の中にいながらいろいろなことに 取り組めたのは自分にとって有益

● ● ● 渡邊マイスターは指導しながら 自分の作品を作り上げてしまう

1年生のとき、真壁町の土蔵の修復の実習に参加したのですが、そのときは左官の仕事ができませんでしたので、いつか左官の仕事をやりたいと思っていました。渡邊マイスターがすごいと思ったのは、まず鏝の使い方でした。実際に自分でやってみると、片方の手で持った板から壁材を鏝の上に乗せるのはとても難しかったです。また、生徒一人ひとりを指導しながら、自分でも擬木をどんどん作り上げてしまうところはさすがにものづくりマイスターだなと思いました。

● ● ● 学校でいろいろな実習を受けることで 進路の幅が広がる

左官の実習を受けたことによって、左官というものを自分の進路の1つとして考えることができるようになりました。また、左官の実習のあと、造園の3級技能



坂入 浩平さん

検定にも挑戦しました。学校の中にいながらいろいろなことに取り組めたのは自分にとって非常によかったと思います。

この高校に入学したきっかけは、いろいろな資格がとれるだろうということでしたので、学校でいろいろな実習を受けることで進路の幅が広がるのは良いことだと考えています。

● ● ● 最初をあきらめずにがまん、 やがて道が拓ける

いろいろな職種を体験するうえで大事なことは、最初はうまくいかないことが多いけれど、だからといってすぐにあきらめようとせず、しばらくがまんすることだと思います。すると必ずうまくいくようになって、楽しくなってきます。

私はいま3年生なので、進路を決めて高校を卒業してからは、技能五輪に挑戦できるくらいになりたいというのが夢です。



作品(モルタルで作った擬木によるフラワーポット)

地域技能振興コーナー担当者より

こちらの真壁高校で「ものづくりマイスター制度」の講習が始まるときには、初日の開講式で必ず校長先生が訓示を述べ、生徒の皆さんにしっかり講習を受けるように激励の言葉を述べています。多くの高校で「ものづくりマイスター制度」を導入するところはありませんが、真壁高校のように校長先生自らが非常に

熱心に取り組まれているのは比較的珍しいケースだと思います。「ものづくりマイスター制度」の調整役である私たちにとっても、とてもやりがいがあり、気合いが入りました。受け入れ先である学校でのこうした熱心な取り組み方は、1つのモデルケースになるように感じました。